

中部の

エネルギーを 築いた

人々

伊賀の電気王 田中善助

三重県近代史における三大実業家として、真珠の三木本幸吉、オプラート(透明で薄く、粉薬などを包むのに利用したもの)製造の小林政太郎、電気の田中善助があげられている。

田中善助は、1858(安政5)年に伊賀上野町で生まれ、1946(昭和21)年に88歳で亡くなった。今月は、水力発電事業、鉄道事業など、伊賀を中心にした地域振興に大きく貢献した田中善助翁を紹介する。



田中善助

伊賀の電気王としての業績

田中善助は、早くから水力発電事業に着目し、岩倉水電を皮切りに伊和水電、比奈知川水電を創立して社長に就任した。このほか、関西水力電気(設立：1905)の常務取締役、近江水力電気(設立：1908)の取締役就任するなど、関西の電気王とも呼ばれた。

(1) 岩倉水電(株)の旧岩倉発電所

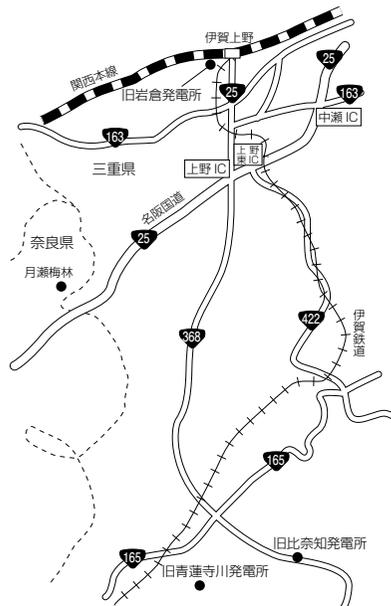
善助翁は、伊賀の河川を利用して水力電気を起こし、あらゆる工業や電灯に用いることこそ公益の大なるものと考え、1894(明治27)年から3回にわたり水力発電を計画したが失敗。しかし周囲の理解が得られないまま、独力で許可を待たず無断で岩倉水力発電所(当

初出力：50kW)の建設を始め、1904(明治37)年に完成した。翌年に岩倉水電(資本金：5万円)を設立し社長に就任した。

この発電所は有効落差が13mと低かったので、1918(大正7)年頃、堰堤と水槽の嵩上げ、また水車・発電機の更新で出力150kWに増設し、三重合同電気を経て、東邦電力との合併を機に新居発電所と改称した。その後、中部配電、中部電力へと引継がれたが台風水害



岩倉大橋・岩倉峡付近、現在発電所跡は公園に、旧水路は川辺の遊歩道となっている



で水没し、1955(昭和30)年に廃止された。

(2) 伊和水電(株)の旧青蓮寺川発電所

1907(明治40)年に伊和水電(資本金：50万円)が、青蓮寺川発電所建設のため設立された。本社は岩倉水電(株)内において実質は同一会社であった。当初、この会社は伊勢地方への送電を目的に建設されたが津方面にも送電するため、翌年、三重共同電気(株)と改称した。そして青蓮寺川発電所(出力：700kW)の完工を機に、1911(明治44)年に津電灯(株)と合併した。なお、三重共同電気は、1922(大正11)年に津電灯・松阪電気・伊勢電気鉄道の3社が合併し、1937(昭和12)年に東邦電力と合併した。なお、青蓮寺川発電所は、1966(昭和41)年に青蓮寺ダム建設に伴い廃止された。

(3) 比奈知川水電(株)の旧比奈知発電所

比奈知川水電(株)は1919(大正8)年に設立され、1922年に建設された。発電所(出力：800kW)完工後の同年、三重合同電気に引継がれた。1990(平成2)年に名張川、淀川流域水系治水計画の一環として比奈知ダム建設に伴い廃止された。現在は水圧鉄管跡と水圧管巡視路階段が見られる。

このように田中善助ゆかりの発電所は、三重合同電気、東邦電力、中部配電、中部電力へと引継がれ、その使命を終えた。その後、新たに三重県企業庁により青蓮寺発電所(竣工：昭和45年、出力：2,000kW)および比奈知発電所(竣工：平成10年、出力：1,800kW)が建設された。

電気鉄道事業の足跡

1910(明治43)年、上野商工会会長になり、地元の近代化を促進するため鉄道事業を計画した。大正3年に伊賀軌道を設立し、大正5年に伊賀上野と上野町を開通させた。翌年、社名を伊賀鉄道に改称した。1922(大正11)上野町と名張間が全通、大正15年に電化され、伊賀電気鉄道に社名変更した。1929(昭和4)年に大阪電気軌道が伊賀電気鉄道を合併し伊賀線となった。戦後、伊賀線は近畿日本鉄道が運行していたが、2007(平成19)年、伊賀鉄道(伊賀上野駅から伊賀神戸間の16.6*キロメートル)に

運営が移管された。

一方、1921(大正10)年、朝熊登山鉄道を設立、社長に就任し、大正14年に開通させた。この登山鉄道は、朝熊山山頂にある古刹金剛証寺参拝客の便を図ったもので、「お伊勢参らば朝熊をかけよ、朝熊かけねば片参宮」と宣伝し、当時珍しいケーブルカーと相まって多くの観光客が利用した。しかし1944(昭和19)年、不要路線とされ設備を撤去し、廃止された。

地域産業と文化の振興

善助翁は青年時代から様々な事業に才能を発揮するとともに、治水や開墾、地元の上野公園整備、下水道の整備、榊原温泉の復興などに貢献した。

(1) 月瀬保勝会の結成

伊賀に隣接し、古くから梅の名所として知られる月瀬がある。ここの梅林が破壊されようとしていることを知った善助は、月瀬保勝会を結成し、そのための費用に私財を投じた。

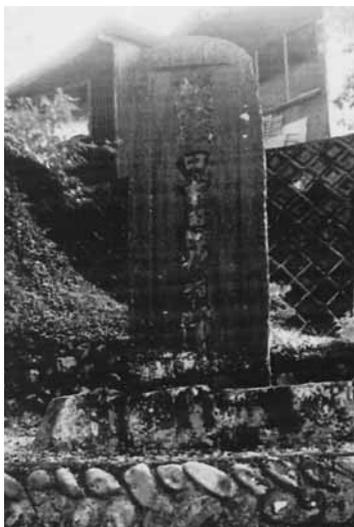
さらに1882(明治25)年、帝国議会に「風景保護請願書」を提出した。

この請願書は残されていないが、その趣旨は「梅林を復古して風致をよくする事は、大きくいえば日本国のためであり、また一面には観梅客の往来することによって伊賀の上野も盛んになります。これに力をいたすことは決して月瀬だけの利益でなく、直接間接に公益になるものと考えます」と述べている。

月瀬にある田中善助翁顕彰碑



榊原温泉 射山神社にある温泉復興功労者田中善助翁碑



工事に着手した。この際、工事費として2万円を寄付し、1929(昭和4)年に下水道が完工するのを見て町長を辞任した。

また、清少納言にゆかりがあるといわれる榊原温泉に1937(昭和12)年、神湯館を建て復興させ

(2) 下水道の整備、榊原温泉の復興などに貢献

善助翁は、上野商工会会長(1910)、伊賀貯蓄銀行を設立し副頭取(1896)・伊賀上野銀行頭取に就任(1920)、伊賀傘同業組合を設立し組合長に就任(1918)、伊賀窯業(株)を設立し社長に就任(1923)するなど地元産業界に貢献した。

1924(大正13)年、上野町長に当選し下水道

た。復興20周年記念に当たる1956(昭和31)年、地元民が温泉復興功労者田中善助翁碑を射山神社に建立した。さらに茶道、書道などにも造詣が深く、産業界のみならず、風流人として地元文化に大きく貢献した。

なお、田中善助の簡単な年譜は次のとおりである。

田中善助年譜

田中善助の歩み		
1858	安政 5	伊賀上野町、竹内長兵衛の長男として生まれる
1872	明治 5	叔父、田中善助の養子となる
1891	明治24	月瀬保勝会を設立
1896	明治29	伊賀貯蓄銀行を設立、副頭取となる
1902	明治35	岩倉発電所建設工事に個人で着工
1904	明治37	岩倉発電所竣工
1905	明治38	岩倉水電を株式会社とし社長に就任
		関西水力電気を設立、常務取締役就任
1907	明治40	伊和水電を改称して三重共同電気を設立、社長に就任
		近江水力電気を設立、取締役就任
1909	明治42	三重共同電気を津電灯株式会社に合併し、同社取締役に就任
1910	明治43	上野商工会会長に就任
1914	大正 3	伊賀軌道を設立、取締役に就任
1918	大正 7	伊賀傘同業組合を設立、組合長に就任
		比奈知川水力電気設立、社長に就任
1920	大正 9	伊賀鉄道社長および伊賀上野銀行頭取に就任
1923	大正12	伊賀窯業株式会社を設立、社長に就任
1924	大正13	上野町長に就任
1929	昭和 4	伊賀鉄道は大阪電気軌道に合併し解散
		上野町下水道完成、上野町長を辞職
1937	昭和12	榊原温泉を復興させ神湯館を開業
1944	昭和19	「鉄城翁伝」を刊行
1946	昭和21	死去、菩提寺大超寺で葬儀

(寺沢安正)